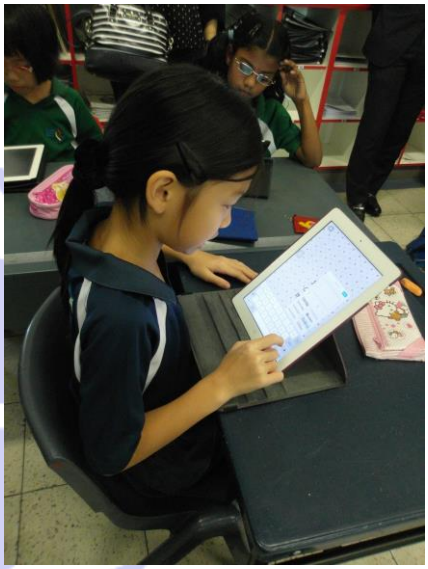
7 歳児が iPad を使って授業をする教室
～シンガポールの最先端 ICT 教育現場を視察～

シンガポールは ICT（Information Communication Technology：情報通信技術）教育先進国です。今回はその中でも特に先進的な取り組みを行っている小学校を視察する機会がありましたのでご報告します。

１．ICT 教育とは

ICT 教育とはその名の通り ICT を活用した教育方法のことです。シンガポールでは日本の文部科学省に相当する教育省（Ministry of Education：MOE）が教育行政全般を直接管理・管轄して種々の取り組みを行っており、ICT 教育に関しても管理・管轄を行っています。



iPad を活用した授業風景①

ICT 教育は、1997 年にスタートし、ICT マスタープランを策定して以後５年毎にプランの更新を行っています。最初のプランでは、教材ソフトの開発、教職員への ICT 研修、教育施設のハード整備など基礎の確立が行われました。続くプラン２では、具体的な成果目標に踏み込み、生徒の ICT 基本習得水準が確立されました。また、学校が提案する ICT 教授法について選考を行い、提案が採用された学校を「フューチャースクール」として認定して MOE が環境整備等の予算措置を行うプログラムも開始されました。

現在のプラン３では、ICT 利用による生徒の自己学習能力、協働能力の向上が重要視されており、ICT 教授法の成功事例の共有などが進められています。

２．Teach Less, Learn More

１月、キャンベラ小学校の ICT 教育現場を視察しました。ここは近隣に住む子供達が通学する公立小学校ですが、教育省よりフューチャースクールの認定を受けている ICT 先進校で、校長先生によれば従来の小学生が教科書を使っていたように iPad を当たり前の教材として使用する教育環境を整備することを重視しているとのことでし

iPad を活用した授業風景②

た。iPad を必要不可欠な、習慣づけられたごく当たり前のツールとして生徒達に意識させることを目標としており、この実践のため 1 年生（7 歳）から iPad を用いて授業を行っているとの事でした。例えば授業内でわからない言葉等があった時、先生は答えを教えるのではなく、iPad 等を活用した答えの探し方を教え、生徒達が直接答えを見つけるようにしているとのことでした。まさに ICT マスタープラン３で掲げられている目標、Teach Less, Learn More（教わるではなく学ぶ）を実践している現場であると感じました。

３．成功の秘訣は大人への教育！？

小学校 1 年生から自分の iPad を持つ。皆様はどう思われますか？「どうせ遊びにしか使わない」、「現実社会のコミュニケーションが疎かになる」そんな考えが頭をよぎりませんでしたか？実はシンガポールの大人達も最初は同じようなイメージを持ったそうです。しかしこの考え方こそ間違ったアプローチで ICT 機器に接し始めてしまった人達が持つ考えであると校長先生はおっしゃいました。だからこそ、この小学校では間違いが繰り返されないように正しい接し方を教えているのだと。また、この小学校の ICT 教育の特徴として、子供達が ICT 機器を使って学び始める前に、ICT 教育への正しいアプローチを保護者に理解してもらうための意見交換会などを開催しているとのことでした。適切なフォローにより保護者の心配を軽減し、さらに理解者になってもらう努力は、ICT 教育ならずとも新しい事を始めるうえで非常に重要であると感じました。

さらに教師に対しての ICT 教育も非常に重要な課題であり、講習会等を行いながらフォローアップを続けているとのことです。これは教師の負担や不安が軽減するだけではなく教育内容の向上に繋がり、結果として子供達の学習能力向上に繋がるという良い循環を生んでいるとのことでした。

日本でも ICT 教育を推進する自治体は増えていると思います。推進する上での問題点は種々あると思いますが、まずは私たち大人が正しい ICT 機器の使い方を学ぶ必要があるのかも知れません。

CLAIR シンガポール事務所としても今後益々進歩するシンガポールの ICT 教育について注視していきたいと思います。

（下村所長補佐　愛知県田原市派遣）